

## 鎌倉順礼記

たくあんそうほう

作者: 沢庵宗彭 (1573-1646)

成立: 寛永後期 (1633-1644)



## 解題

## Keyword

- 鎌倉
- 紫衣事件
- 徳川家光
- 称名寺
- 鎌倉五山
- 「沢庵和尚鎌倉記」
- 中川喜雲
- 「鎌倉物語」
- 浅井了意
- 「東海道名所記」
- 鈴木棠三
- 「鎌倉記」
- 「鎌倉遊覧記」

江戸時代初期の禅僧・沢庵宗彭の鎌倉紀行。鎌倉と周辺の社寺を巡歴し、諸寺の荒廃を憂えている。近世の「古都鎌倉」発見に影響を与えた。本書は何種類もの書名で知られるが、ここでは『鎌倉順礼記』をもって代表とした。



(複製本)『鎌倉順礼記』稀書複製会編  
(底本: 万治2年版本)

## ■ 成立

寛永10年(1633)仲冬(11月)の旅であることが本文に明らかであるが、執筆時期については後年とする説(鈴木棠三)もあり、確定しがたい。いずれにせよ沢庵晩年の著作であり、寛永末年(1644)までには成立したと思われる。

## ■ 作者

沢庵宗彭は臨済宗の高僧。天正元年(1573)但馬国出石(現・兵庫県豊岡市)の武家に生まれ、10歳で仏門に入る。14歳で浄土宗から臨済宗に転じ、後に京都や堺で禅の修行を積む。慶長9年(1604)大悟して沢庵の号を受け、同14年には大徳寺153世住持になっている。

寛永4年(1627)幕府は大徳寺・妙心寺等に対して、幕府に無届けで勅許(朝廷の許可)により住持を選任し、紫衣(しえ)を着用していることを無効とする法度を出した。両寺の一部の僧はこれに抵抗し、大徳寺では沢庵執筆の抗弁書を提出したが、同6年沢庵らは江戸に召喚さ

れ流罪に処された(紫衣事件)。沢庵は配流先の出羽国上山(現・山形県上市市)で藩主土岐氏の厚遇を受け、3年後の寛永9年(1632)大赦により江戸に帰還した。まだ行動の自由は許されなかったが、翌10年秋にはその後『鎌倉順礼記』として著される鎌倉旅行をしている。

寛永11年には大徳寺帰山が許され沢庵は京に帰り、折から上洛中の3代將軍徳川家光と二条城で会見する。以後、晩年の沢庵は家光の信任厚く、寛永16年には江戸品川に創建された東海寺の開山となる。同18年に至り、紫衣問題も沢庵らの主張が容れられて解決した。正保2年末(1646)沢庵は東海寺で73歳の生涯を終えた。

沢庵は漢詩・和歌にすぐれ、著述も禅のほか剣術や茶の湯に関するものがあり、それらは『沢庵和尚全集』に収められている。また、家光のほか後水尾上皇、幕府総目付・柳生宗矩、熊本藩主・細川忠利らとも親交を結んだ。

沢庵は、漬け物の「沢庵」にも名を残しているが、創案者という事は確認できない。また、吉川英治『宮本武蔵』の重要な登場人物でもあるが、これは完全な虚構である。

## ■ 内 容

60歳の沢庵は寛永10年(1633)江戸から鎌倉へ旅をした。まず鎌倉五山の歴史を述べ、旅の動機をその順礼のためとして、以下和漢混淆文に和歌と漢詩をまじえた紀行となる。11月1日江戸を出発、能見堂から金沢の入り江を眺望した後、称名寺に着き、寺の荒廃と金沢文庫の消滅を嘆く。2日も金沢に滞在、瀬戸明神を参詣して舟で島を巡る。3日は金沢を立って朝比奈切通しから鎌倉に入り、夕刻雪ノ下に到着、鶴岡八幡宮の夜神楽を見る。4日は江の島に出かけ、往復中に極楽寺、長谷寺にも寄る。以下は日付を欠くが、4日間で建長寺、円覚寺、浄智寺、寿福寺、浄妙寺の順に五山を順礼し、報国寺、覚園寺にも詣でている。鎌倉の諸寺も荒廃著しく、沢庵は慨嘆しつつ、その原因を後北条氏の関東支配に求めている。五山順礼は詩歌が挿入されず、巻末に鎌倉の谷(やつ)、旧跡、五山を詠んだ和歌と漢詩がまとめて載せられている。

## ■ 諸 本

本書は沢庵没後の万治2年(1659)に絵入りの版本『沢庵和尚鎌倉記』として刊行された。近代に入ってから多種類の翻刻本が出版され、その書名も「史料本文を読む」に見られるようにさまざまである。鈴木棠三は『鎌倉：古絵図・紀行 鎌倉紀行篇』の解題(『鎌倉への道』に再録)において、書名や本文の異同は翻刻の底本となった沢庵自筆本が複数存在するためと推定している。

## ■ 鎌倉名所記

万治年間(1658-1661)には、本書と同じ万治2年に中川喜雲著『鎌倉物

語』が京都で刊行されている。これは地誌の体裁をとった名所案内記として人気を博した。また、浅井了意著『東海道名所記』もほぼ同時期の成立と見られるが、登場人物が鎌倉の名所を語る一節を戸塚と藤沢の間に置いている。これらが広く読まれたことにより、鎌倉とその周辺は近世中期から名所・観光地として多くの人が訪れることになっていくのである。



## 史料本文を読む

### <複製本・影印本>

- 『沢庵和尚鎌倉記(上・下)』 稀書複製会編 米山堂 1924 [K99. 4/2]
  - ◆ 「沢庵順礼鎌倉記」(『近世文学資料類従 古板地誌編12』 勉誠社 1975 [K97. 4/49/1-12])
  - ◆ 「沢庵和尚鎌倉記」(『新編稀書複製会叢書 第29巻』 臨川書店 1990 [918. 5/32/29])
- ※上記3点はいずれも万治2年林重右衛門開版の版本を底本とする

### <翻刻本>

- ◆ 「鎌倉之記」(『沢庵和尚全集』 上田屋書麈 1897 [188. 8/171])
- ◆ 「紫野沢庵和尚鎌倉之記」(『改定史籍集覧』 第17冊 雑類 第345 [210. 08/13/17])
- ◆ \* 「鎌倉遊覧記」(『沢庵広録』 秋庭宗琢編輯・発行 1906)
- ◆ 「沢庵和尚鎌倉記」(『続々群書類従 第9』 国書刊行会 1906 [081/3/9])
- ◆ \* 「鎌倉順礼記」(『国文東方仏教叢書 第7巻』 同刊行会 1925)
- ※覆刻版も刊行(名著出版 1975)
- ◆ 「鎌倉順礼記」(『続群書類従』 第33輯下 雑部 巻990) [081/2/33-2]
- ◆ 「鎌倉遊覧記」(『沢庵和尚全集 巻3』 沢庵和尚全集刊行会 1929) [188. 8/212/3] ※『沢庵広録』所収のものを再録
- ◆ 「鎌倉遊覧記」(『高僧名著全集 第11巻 沢庵禅師篇』 平凡社 1931 [180. 8/4/11])
- ◆ 「鎌倉順礼記」(『鎌倉：古絵図・紀行 鎌倉紀行篇』 鈴木棠三編著 東京美術 1976 [K291. 4/121])



## 史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆ 井浦芳信 「『沢庵和尚鎌倉記』の性格」(『学苑』(541) 昭和女子大学近代文化研究所 1985 [Z051. 3/10])
- ◆ 鈴木棠三 「鎌倉順礼記」(『鎌倉への道』 鈴木棠三著 三一書房 1988 [K291. 4/219])
- ◆ 西山美香 「鎌倉地方寺社への旅：沢庵『鎌倉記』」(『国文学 解釈と鑑賞』 vol. 71(8) 至文堂 2006 [Z910. 5/16])